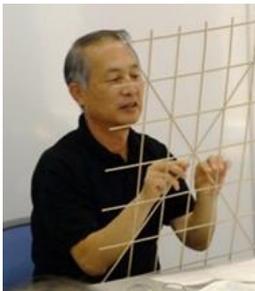


## ●春日部市民文化講座（第11回）

◆日 時：2014年7月30日(水) 10時（ぼぼら春日部4階会議室）～11時

◆テ ー マ：講演「大凧の話」

講師：糸井 順一さん（春日部市庄和大凧保存会会長）

◆**ゲスト紹介**：1947年春日部市(旧庄和町)に生まれる。春日部市役所退職後、2009年6月「庄和大凧文化保存会」の役員となり、2012年7月より、会長に就任。◆**大凧あげ祭り**(毎年5月3、5日開催)：江戸時代後期、出羽の僧によって養蚕の豊作占いとして大凧揚げが伝えられたのが始まり。現在では、その年に初節句を迎える子供たちの健やかな成長を祈願して行われている。大凧は、重さが約800キロ、大きさは100畳敷にもなり、100人の引手によってあげられる。今年は『上昇』『景気』の大凧、『希望』『美人』の小凧が上がり続け、大勢の観客から歓声が上がった。国選定無形民俗文化財。

## ■天気と風が運命を握る大凧揚げ

今年4月26日に“アド街ック天国”で放映されましたので、例年に比べて「大凧あげ祭り」のお客が多かったですね。通常、5月3日と5日の二日間にわたって開催されますが、例年は3日が3万人位、5日の5万人位と合わせて10万人程度というのが主催者側の発表なのですが、今年は放送のお陰で3日はすごくお客が多かったですね。公式には「今年も揚がります」と言っているのですが、正直なところでは3年に1回ぐらい、良くて2年に1回という感覚です。それは、大凧が揚がるか否かは、風と天気で決まるからです。5月というのは、晴れば必ず南風、南南東の風であり、曇ったら東風なのです。江戸川は

南北に流れていまして、揚げる所が西側に川が蛇行する場所で、そこに凧を置きますので、南南東の風ですと大凧を揚げるには誠に都合が良いのです。東風ですと、川に沿って曳きますから、全体の川幅が400m位あっても、実質に綱を曳ける距離が150m位しかないのです。ですから1回走るとそれで終わってしまっても無残なのです。時には大凧の骨が折れてしまうこともあります。凧を揚げるのは意外と簡単でして、風が入れば凧は揚がるように出来ていますが、降ろすときが結構大変なので、上手く下ろすことが私達の腕の見せ所です。

## ■宝珠花地域の大凧揚げの起源

私共の宝珠花地域で凧が普及したというのは、江戸川の開削が主な原因ではないかと言われています。江戸川開削というのは、関東郡代の伊奈氏が親族にあたる庄内領代官の**小島庄右衛門さん**とともに野田市関宿から松伏町金杉辺りにかけて開削工事を行ったものです。この代官の小島庄右衛門さんは愛知県三河の出身でございまして、工事終了後の正保3年(1646)に江戸川のほとりに**小流寺**(しょうりゅうじ)を建立したので、小流寺にはその由来とお墓がございまして。小流寺は、浄土真宗大谷派に属しております。宝珠花地域の凧揚げが始まるのが、この時期だと考えられています。江戸川ができたことで、江戸から関宿を通っての舟運が盛んになりました。そして、関宿には関所ができて、関宿で荷物の改めが行われますので、宝珠花河岸が待機場所になったのです。そういう場所ですから、建物もできて人が集まり、宝珠花地域は近在の荷物の集散地として発展しました。この舟運と凧揚げがどのように関係するかと言いますと、当時の舟は帆掛け舟でして、船頭さん達は風を見るのが得意です。こうした船頭さん達により、江戸から最先端の文化、武者絵や美人画などがもたらされました。凧揚げもそのひとつと思われまして。特に江戸では1646年に的場に火の付いた凧が落ちて火事になるという事件が起こり、凧揚げ禁止令が出されていました。それから約100年が過ぎた1796年には江戸に専門の凧屋さんが現れたりしております。1800年に入りますと西の内和紙100枚の大凧が揚がるようになりました。西の内和紙というのは、現在の茨城県常陸大宮市辺りで作られる半紙2枚半位の和紙でして、これを100枚貼った大凧が出てきたということです。さらに、凧に金とか銀とかを貼って華美になっていくのです。1841年には「天保の改革」が行われ、幕府による大凧揚げ禁止令も出されたのです。この1841年というのは、出羽国(でわのくに、現在の秋田県)の僧で**浄信(じょうしん)さん**という人が各地巡礼を行っており、東北から出てきて茨城の方を回り宝珠花に着いたと言われております。この浄信さんは、小流寺に宿泊したのですが、10日ほどで亡くなってしまいます。これは小流寺の過去帳に載っています。この浄信さんが、偶然にも幕府による大凧揚げ禁止令の年に、養蚕とか農産物の値段が上がるとかけて凧揚げを進めたとと言われております。これが、庄和の大凧揚げの起源だと言われております。明治10年頃、1877年には宝珠花で上町と下町に二つに分けて、多少大きな凧が揚げられたという記録がございまして。特に浄信さんが伝えたのは、繭の収穫前に豊作を占うことを勧めたということでした。繭の収穫前に人を集めて賑やかに凧揚げをすることで、商店も潤うということもありました。これが現在に至っている大凧揚げの起源です。

この後の大凧の作り方なども含めてとても面白いお話の数々でした。